

環境調和型ロジスティクス推進フォーラム



# 環境対応と企業価値の向上

2004年12月17日

富士ゼロックス株式会社

執行役員 品質・環境経営部長  
藤原 仁

本日、お話をさせていただくこと



1

当社の経営理念とその展開

2

当社の環境保全活動

3

回収物流と環境保全活動

4

物流と環境対応の進化のために

## 会社概要



### 富士ゼロックス株式会社

本社: 〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目17番22号  
創立: 1962年(昭和37年)2月20日  
資本金: 200億円  
社員数: 34,017人(2004年3月現在)14.625人 (2004年3月現在)  
取扱商品 <オフィス機器>  
カラー複写機、複合機、レーザープリンター、  
パブリッシャーシステム、エンジニアリングシステム  
事業所: 全国主要都市200カ所、海外13の国と地域  
研究所: 神奈川県中井町、パロアルト(米国)  
開発・製造事業所: 海老名、竹松、岩槻、川崎、鈴鹿、滑川  
グループ会社: 国内・海外59社  
2003年度業績 売上高 10,023億円  
純利益 428億円  
株主: 富士写真フイルム(75%)、ゼロックス・リミテッド(25%)

## Mission Statement (私たちが目指すもの)



私たち富士ゼロックスグループが目指すもの

知の創造と活用をすすめる環境の構築

世界の相互信頼と文化の発展への貢献

一人ひとりの成長の実感と喜びの実現

# Shared Values (私たちが大切にすること)



## 経営理念とCSR 企業風土の醸成



'60      '70      '80      '90      '00

### ゼロックス フィロソフィー

*Our business goal is to achieve better understanding among men through better communications.*

「ゼロックスは、熱意ある、そして革新的な人々の集まりである。単に利益やビジネスの成功だけでなく、責任ある行動をとり、顧客にとって価値あるサービスを提供し、また専任者としての自尊心の根源をもなすような、そういった足跡を社会に残したいと願っているのだ。」

Joseph C. Wilson  
(米国ゼロックス創業時の会長)



### 企業理念 ('79)

富士ゼロックスは社内外の信頼を基盤とし、たゆまざる努力と革新によって、卓越した価値を提供し、人間社会の理解と調和の増進に寄与する。

### 社員行動規範

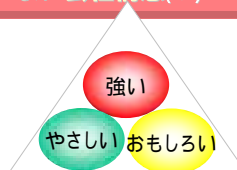
### 私たちが 目指すもの ('98)

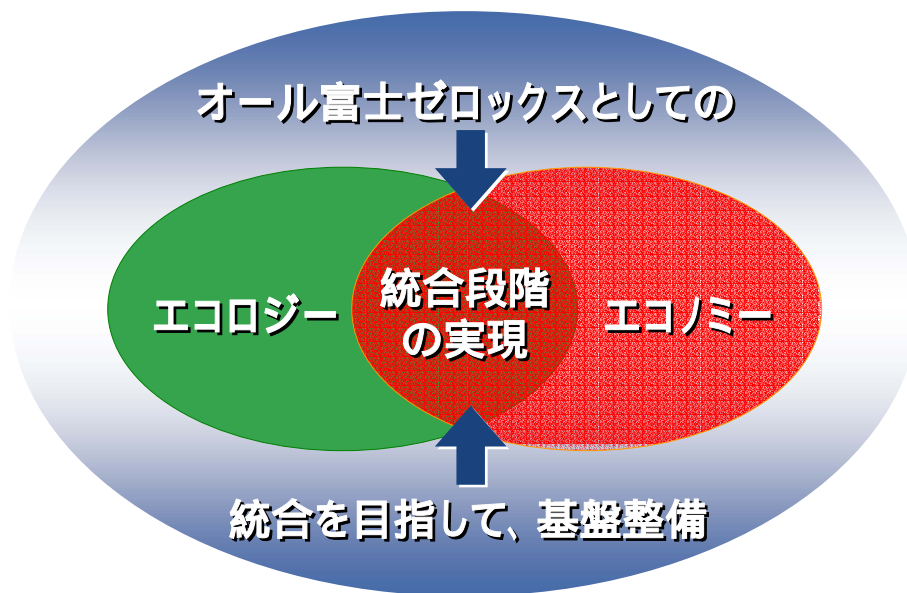
- 知の創造と活用をすすめる環境の構築
- 世界の相互信頼と文化の発展への貢献
- 一人ひとりの成長の実感と喜びの実現

### 私たちが 大切にすること

お客様の満足、環境、高い倫理観、科学的思考、プロフェッショナリズム、連携、多様性の尊重、信頼と思いやり、楽しむ心、冒険心

### よい会社構想 ('92)





**エコロジーは経営の最優先課題**

エコロジーを徹底的に追求していけば、  
結果としてエコノミーにつながると確信している。

エコロジーが経営の最優先課題であり、  
徹底して環境に配慮した事業を推進してこそ、  
経営が成り立つとの発想を持たなければならない。

## 本日、お話をさせていただくこと



1

当社の経営理念とその展開

2

当社の環境保全活動

3

回収物流と環境保全活動

4

物流と環境対応の進化のために

## エコロジー&セーフティビジョン



富士ゼロックス「エコロジー&セーフティビジョン」

富士ゼロックスは、  
環境との調和を最大限に尊重した活動を事業の  
あらゆる側面で展開し、  
安全で環境にやさしい商品・サービスおよび  
情報を提供することにより、  
お客様や社会の環境保全活動に貢献する  
ことにおいて世界のトップレベルを実現する。

## 環境保全活動への取り組み



### 地球環境問題をベースに

#### 天然資源枯渇問題

- ・ 持続可能なものづくりを目指して
- ・ 紙の持続可能な供給を目指して

#### 地球温暖化問題

- ・ 自社商品の省エネを通じて
- ・ 物流の環境負荷削減(CO2削減)

#### 有害化学物質の削減

- ・ 商品の有害化学物質削減
- ・ 製造工程での使用削減
- ・ 大気・土壌・水など

環境貢献  
企業として

世界の  
トップ  
レベルを  
実現する

## 環境保全活動への取り組み



### 地球環境問題をベースに

#### 天然資源枯渇問題への取り組み

- ・ 持続可能なものづくりを目指して
- ・ 紙の持続可能な供給を目指して

#### 成果として

- ・ 95年以來73機種、23万台以上のリユース部品使用複写機/複合機を生産、新規資源投入量を2,200トン削減
- ・ タイに再資源化会社を設立

- ・ 環境配慮型パルプ増配合計画を推進中ー2010年までに、古紙パルプの配合率50%超で維持しつつ、残りを植林木パルプ、認証林パルプでまかなう。
- ・ 「環境・健康・安全に配慮した用紙調達規則」制定

環境貢献  
企業として

世界の  
トップ  
レベルを  
実現する

# 環境保全活動への取り組み



## 地球環境問題をベースに

### 地球温暖化問題への取り組み

- ・ 自社商品の省エネを通じて

#### 成果として

- ・ お客様使用時の総電力消費量の削減を進め、2005年に1997年の50%にする目標設定、2003年度は 72% に、

この目標を達成するために幅広いラインナップで省エネ商品の開発を。この取り組みが評価され、99年から5年連続「省エネ大賞」を受賞中。

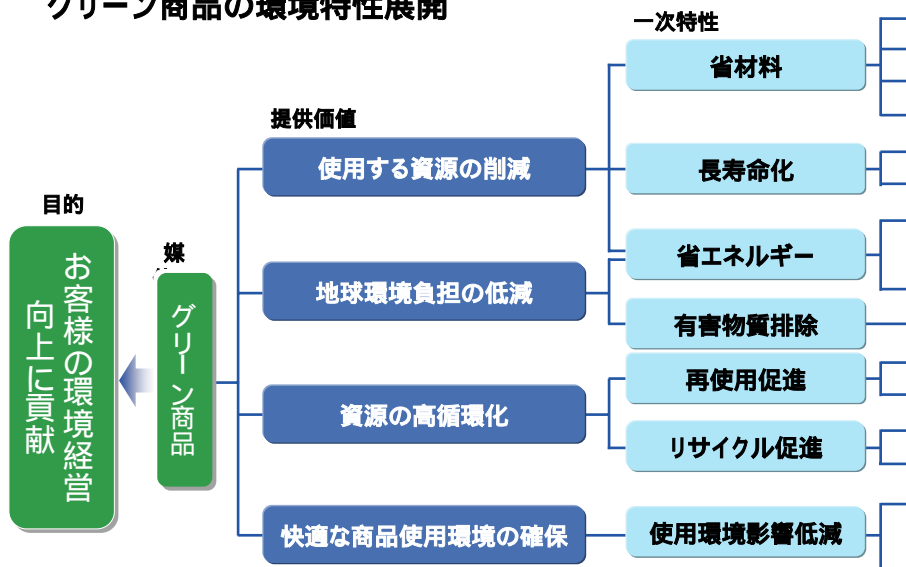
環境貢献  
企業として

世界の  
トップ  
レベルを  
実現する

# グリーン商品の開発



## グリーン商品の環境特性展開





ISO14001認証 国内外の74の事業所・関連会社で取得済み



富士ゼロックス及び  
国内販売会社、関連会社  
53社及び拠点

海外関連会社  
21社及び拠点

富士ゼロックスの環境への取り組み  
オフィスの便利がエコになる。

10分





1

当社の経営理念とその展開

2

当社の環境保全活動

3

回収物流と環境保全活動

4

物流と環境対応の進化のために



### リサイクル技術の革新

- モノでなくベネフィットを提供する事業形態からの発想
- 日本でもやがて資源循環型の時代がくる

### 回収物流システム

静脈物流は非効率、旧態依然  
効率よい製品回収と環境負荷の最小化が必要

リサイクル技術と回収物流システムを、  
バランスよく育てないと、  
資源循環システムは事業として成り立たない

## なぜ資源循環システムにとりくんだか



### きっかけ 1990年頃

- モノでなくベネフィットを提供する事業形態からの発想
- オーストラリアでの体験
- 欧米ゼロックスの先進的事例を見て
- 日本でもやがて資源循環型の時代がくる

### 経営的な効果の見込み

- リサイクルと生産ラインの一体化, 生産システム革新へつながる。設計・開発技術のグリーン化 全社の経営革新経営
- 企業経営指標のROAを高める有用な手段と判断

## 当社の特長



### ●リサイクルと生産が一元化した生産システム

97年リサイクルライン設置、3Kイメージを払拭  
73機種、23万台以上の生産台数実績(03年度)

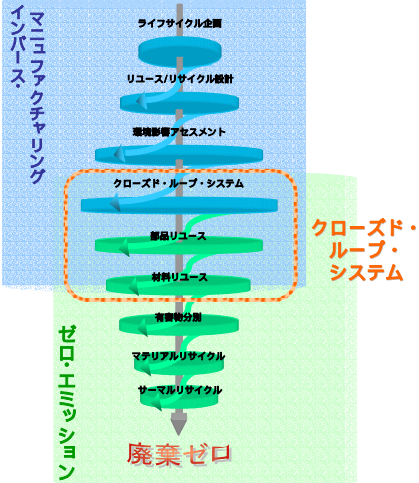
特別なりサイクル品を作っているのではない

- 使用済み商品回収率 直販-98%、販社-89%
- 「廃棄ゼロ」を実現、44部品類の分別、全国のリサイクル会社とネットワークを構築、100%再資源化システムを確立(2000年)

# 資源循環システム



持続可能なモノづくりを目指して、部品のリユース率を上げ、天然資源枯渇問題を



～ 資源循環システム ～

# 資源循環システム



限りなく廃棄ゼロを実現するクローズド・ループ・システム





## CO2削減と経済性の追求

- ・輸配送の仕組みの効率化
  - 車両積載率の向上
  - 定期便車両のルート見直し
  - エコドライブ促進
- ・モーダルシフト推進
  - 国内貨物の貨車・船舶化
  - 輸出入貨物のAir比率低減

## 包装材料・形式の工夫

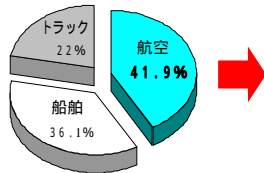
- ・再生樹脂のリサイクル
- ・脱・木質パレットの検討



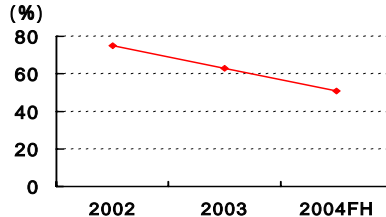
# 物流におけるCO2排出量削減 —地球温暖化対応—



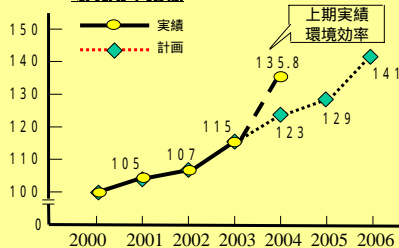
物流手段別CO2排出量比率



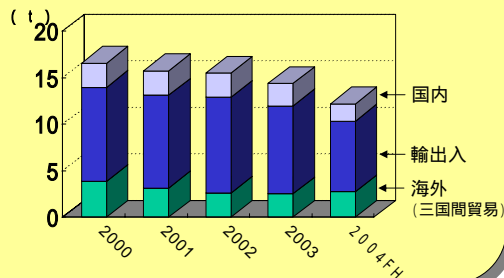
輸出入物流に占める航空機によるCO2排出量比率



環境効率指標



売上高1億円当りCO2排出量 (t CO2)



## 静脈物流分野の課題と方向性



### 静脈物流は効率を上げづらい

→ 回収タイミング ・ 荷姿 ・ 法的規制 等の壁

課題を1企業だけの力で解決する事は難しい  
そこで

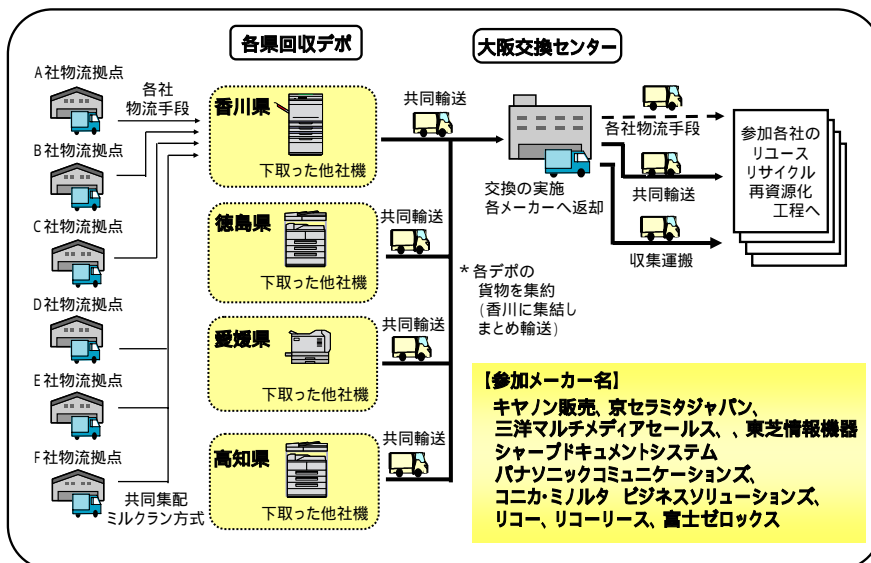
- 業界各社が協力して、静脈の共同物流化を検討、回収した機械の交換システムを作った
- 商売上は切磋琢磨している関係だが、静脈物流では、協力し合う

## 回収機交換システムの概要

- 静脈物流共同化事例 -



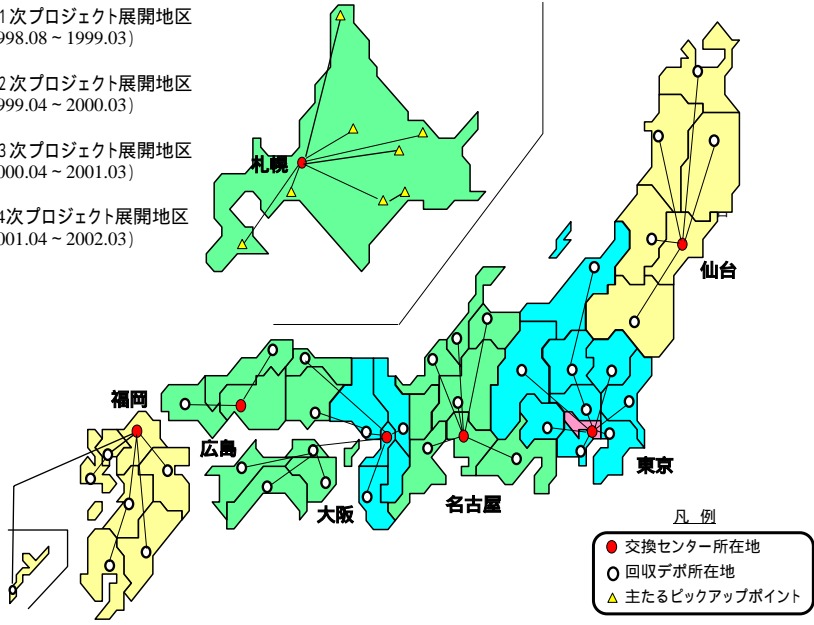
[四国における事例: イメージ図]



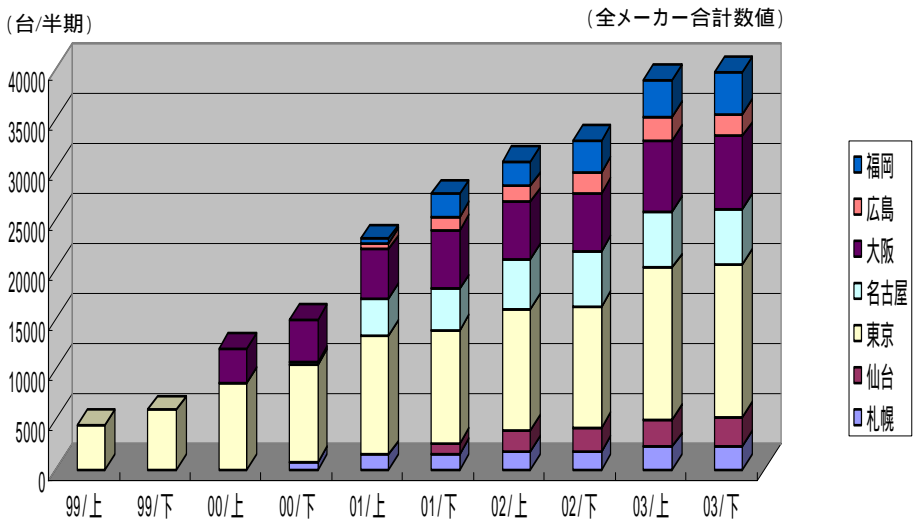
# 共同輸送ルートマップ



- 第1次プロジェクト展開地区  
(1998.08 ~ 1999.03)
- 第2次プロジェクト展開地区  
(1999.04 ~ 2000.03)
- 第3次プロジェクト展開地区  
(2000.04 ~ 2001.03)
- 第4次プロジェクト展開地区  
(2001.04 ~ 2002.03)



# 回収機交換センター 交換実績



'04.04月は扱い件数が単月で10,000台を超えた。'04年度トータルでは、約8万台強となる計画である。

## 共同化の現場



写真は東京交換センターです。  
各社製品毎に仕分され、一時保管します(平均保管日数8.5日)

## 本日、お話をさせていただくこと



1

当社の経営理念とその展開

2

当社の環境保全活動

3

回収物流と環境保全活動

4

物流と環境対応の進化のために



## 業界と行政に望むこと

1

### 各業界へ期待すること

環境対応ポリシーの策定  
検討組織の立上げ  
業界の方向性提示と舵取り  
共同化基盤である標準化の促進

2

### 行政へ期待すること

廃掃法 等環境関連法規の弾力的運用  
モーダルシフトに向けての基盤整備

## 終わりに



**持続可能な社会の実現を目指して**

ご清聴ありがとうございました。